

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2014年2月21日

No14

組合：旺盛な需要に奮闘する職場の組合員に満額で応えよ！
会社：運輸収入計画以上の上積みを目指して全力で取り組む。

～14春闘 第2回賃上げ交渉報告～

中央本部は、本日10時より第2回賃上げ交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

1. 2週間連続で雪害により運休が続いたが、その間の組合員のご苦労に感謝する。
2. 1月は安定した輸送が続き、コンテナ輸送量は対計画 103.7%、車扱で 98.6%と全体で 103%となり、年度累計でも対計画 100.3%となった。2月は雪害で3億円の減収はあったが、本日時点で単月 2500 万円、年間累計で約1億円の貯金がある。
3. 年度末に向けて、①3月に荷物が集中することから、ピークを前後月に均す。②営業面での収支改善を図る。③今回新たに利用いただく新規荷主に、営業社員が直接出向き今後の利用につなげていく。また下期の施策（戦略的価格提示と通運へのインセンティブ策）を引き続き行っていく。

【関連事業部門】

1. 平成25年度落ち着き見込は、岐阜社宅跡地開発の遅れや賃料減少等で約1億円の計画未達の見込みだが、経費削減に努めた結果、収支落ち着きは、計画を達成する見込みである。
2. 収入について、少しでも計画に近づけられるよう、即効性のある案件の実現に努力する。

【組合の主張】

1. 3月に87本増発するとしているが、今後の輸送増に対し要員や輸転資材に不足がないようにされたい。
2. 今の輸送量増の状況を一過性で終わらせることなく、4月以降もつなげていける戦略的な施策が必要である。
3. 会社は「潮目が変わった」とも言っているが、今の駆け込み需要に安堵することなく、気を引き締めて収入拡大にまい進すること。

【会社の回答】

1. 本社内調整を図りながら、増送には万全を期していく。
2. 今の流れを来年度以降にしっかり繋げていく。流れに乗るのではなく、自らが作り出せるように施策を推進していく。
3. 全体のマーケットの状況と収支を考慮して、いかに伸ばしていくかが重要であり、運賃制度の見直しなど様々な課題を克服して収入拡大につなげていく。

最後に中央本部は、「会社は黒字なのに組合員の生活は苦しい。これだけ収益が出ているのは、組合員の努力の結果であり、それに報いるべく誠意ある回答をもって会社の責任を果たされたい。」と主張し、交渉を終了しました。会社の収入動向を見る限り、支払能力は十分にあると言えます。定昇完全実施、ベア獲得に向け中央本部は更に交渉を強化していきます！

以上

次回、第3回交渉は、2月28日(月)です。